

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：53301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530968

研究課題名（和文） 国語教育に音楽鑑賞を取り入れる試みとその効果の数量的解析

研究課題名（英文） Analysis of Literature Education with Music

研究代表者

竹下 哲義（TAKESHITA TETSUYOSHI）

石川工業高等専門学校・電子情報工学科・教授

研究者番号：90259846

研究成果の概要（和文）：本研究では村上春樹の「ノルウェイの森」を題材として、音楽が導く感性が文学作品を理解する上で、どのような影響をおよぼすか分析を試みた。文学作品の解説を行うとき、作品に関する音楽を聴かせることで印象の変化を大きくできること、さらには、環境が異なっても同じような影響を与えることができることが明らかになった。国語教育に音楽鑑賞を取り入れることで、小説世界への理解を深めることができ、創造的な鑑賞力の育成につながることを期待される。

研究成果の概要（英文）：We report analysis results of the contribution of music to the deeper understanding of literature, obtained through education wherein music within the scenery of a piece of literary work is provided. Norwegian Wood by Haruki Murakami was selected as a case study. The experimental procedure was as follows: (1) the evaluation of the selected literature before the introduction of the associated music, (2) the evaluation of the music, and (3) the second evaluation of the literature. The data we obtained indicates that the introduction of the relevant music serves to promote subjects' better understanding of the literature, and the music-combined approach has proved fruitful in inspiring their imagination.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：情報科学

科研費の分科・細目：社会科学、教育学・教科教育学

キーワード：感性情報学、国語教育、音楽鑑賞

1. 研究開始当初の背景

国語教育と音楽教育は人間の感性を刺激する重要な科目で、感性と知性の育成は、

我々が教鞭をとる高等専門学校でも重要な課題となっている。しかしながら、一般に国語教育の十分な時間がとれないうえに、我々

の高等専門学校の現行カリキュラムには音楽という教科すら存在しない。文化審議会国語分科会国語教育等小委員会の意見のまとめに「国語科の根本の部分にあるのは感性に基づく情緒力であり、中・高では感性・情緒と論理とを並列的に養い続ける形になっている。」とある。このように感性と論理は車の両輪とし育成されなければならない。この2つをどのようにして育てていくかは過去に数多くの議論や研究がなされてきた。また、音楽の現行学習指導要領にそのねらいとして「音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞力の能力を伸ばす。」とあり、音楽教育で育まれる感性や表現力の重要性も指摘されている。

さて、我々は、文学作品を読んだり音楽を聴いたりすることで、そこから様々な印象を受けている。文学者は人間の五感すべてを言葉で捉えており、聴覚から得られた情報も言葉での表現を試みている。しかし、言葉で実際の音楽を表現することは不可能である。音楽に影響されて書かれた文学作品は、福永武彦のショパンのピアノ協奏曲が重要な役割を果たす「草の花」やベートーヴェンのピアノソナタ「月光」が表現されている「風土」、さまざまなジャンルの音楽が重要な役割を果たす村上春樹の作品、またモーツァルトのピアノ協奏曲に影響されて書いた立原正秋の作品「薪能」など数多くある。影響された音楽を直接言葉で表現している作品もあるが、作品によっては音楽を言葉でまったく表現していないものや作品名だけが表れるものも多くあり、一読しただけではその影響が読み取れない作品もある。

このように深く結びついていると考えられる文学と音楽を、それぞれの科目ではなく2科目を融合して教育を行うことで作品から受ける印象を大きく変えることができるという着想に至った。そこで効率的な感性教育を目的として、我々は国語教育の中で取り上げた文学作品を読んでいく上で重要だと考えられる音楽作品を鑑賞することによって、その文学作品を別の視点から捉えていくという教育を進めてきた。

しかしながら、文学作品から受ける印象に音楽がどのような影響を与えているかを、はっきり系統的に示した研究はこれまでなされていない。そこで、我々はその影響を数量的に評価したいと考えた。

これまで、学生の興味を引く小説で、音楽の影響が大きいと考えられる村上春樹の「ノルウェイの森」を題材として、音楽が導く感性が文学作品を理解する上で、どのような影響をおよぼすか予備実験を試みてきた。「ノルウェイの森」を理解する上で欠かすことができない場面を選び、その場面を読み取ることができるようになることを主眼に置いて

実験を進めてきた。なお、その場面は文庫本4ページ程度の分量である。印象評定実験は18、19歳の学生を対象としてとして、形容詞22対を用いて7段階のSD尺度を構成して進めた。音楽の印象解析、そして、音楽の提示前後での文学の印象がどのように変化するかの解析には因子分析を用いた。解析結果は、音楽を提示した後の場面に対する因子得点は大きく変化して、それは音楽のもつ因子得点と同じ方向への変化であった。音楽の説明と提示だけでこのように感じられるようになったことは期待以上のもので、文学と音楽の響きあいによるものと考えられる。

2. 研究の目的

背景で述べたように、我々は国語教育の中で文学作品に関連がある音楽作品を鑑賞することによって、文学作品を別の視点から捉えていくという教育を進めてきた。その結果、文学の印象が単に音楽の印象を引きずった内容に変化するのではなく、音楽は小説世界への理解を深めることを示唆する結果が得られた。国語教育に音楽鑑賞を取り入れることで、文学作品を別の視点から捉えることができ、創造的な鑑賞力や情緒力の育成につながる効率的な感性教育に結びつくことが期待される。しかし、これまでの結果は少人数の学生を対象とした少数例の実験しか行っていない。

この研究では、16～20歳の学生を対象として、

- ① 実験協力者数を増やす
- ② 実験協力者の教育環境の影響調査
- ③ 指導者の違いによる影響の調査

といった観点から、これまでの研究成果を発展させ、系統的な研究を行う。題材となる文学作品であるが、学生の興味を引く小説で、音楽の影響が大きいと考えられる村上春樹の「ノルウェイの森」を引き続き用いて実験したい。これまでの予備実験では実験後に作品を繰り返し読む学生や他の長編小説にチャレンジする学生の人数は音楽鑑賞を取り入れない場合より多く、また理解度試験の成績が優れていることも分かっている。

このような研究をしていくことで、これまでの実験結果である「文学の印象が単に音楽の印象を引きずった内容に変化するのではなく、音楽は小説世界への理解を深める」と同様の結果が得られるか、音楽の影響を系統的に解析する。

3. 研究の方法

(1) 実験素材

実験に用いた文学作品は村上春樹の「ノルウェイの森」で、この作品を代表する印象的な次に示すシーンと音楽を選び出して素材とした。それは、真夜中に「僕（ワタナベ）」

が、月あかりに照らされた直子という恋人のとても幻想的な様子を見るという場面である。音楽はビル・エヴァンスの「ワルツ・フォー・デビー」を選択した。この曲は、選んだシーンでも回想される主人公が恋人と過ごす夜に聴いた六枚のアルバムの中からの一曲である。ジャケットの幻想的な女性の様子が、主人公が真夜中に見た恋人の幻想的な姿を表しているとも考えられる。

(2) 印象評定実験

実験は石川工業高等専門学校（以下、本校と記す）と首都圏の一般高等学校（以下、W高校と記す）で行った。本校での実験は平成19年度、21年度、22年度に行い、実験参加者は16～20歳の参加希望者や日本文学の授業受講者、総数で男子83名、女子47名である。そして、W高校では平成22年度に実験を行い、実験参加者は17～19歳の文学の選択授業受講者で、男子19名、女子7名である。いずれの実験においても参加者はあらかじめ「ノルウェイの森」を実験前に何度か読み、実験に臨んだ。基本的な実験手順を図1に示す。本校の実験では、比較のため実験手順5と7の音楽の提示と関連性の解説を行わなかったグループも設けた。

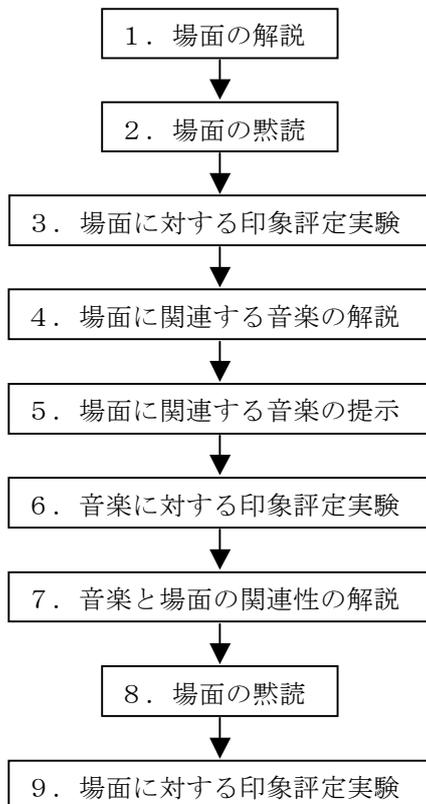


図1 基本的な実験手順

図1の手順で示した印象評定実験では、文学と音楽の印象いずれをも表すと考えられる形容詞22対を選び7段階のSD評定尺度を構成し、印象評定を行った。選んだ形容詞対を因子分析の結果として表1に示す。因子分析は、固有値の変化より3因子構造を仮定して主因子法、プロマックス回転で行った。3因子は、関連の強い印象表現語の意味内容を考慮して、明暗、美的、状況因子と呼ぶことにする。以下、第1と第2因子の明暗と美的に着目して結果を述べていく。また、変化の有意性はt検定で確認した。

4. 研究成果

(1) 結果

音楽を聴いた場合と聴かなかった場合で、明暗と美的の因子得点を算出した結果を図2に示す。図中の矢印の根元の丸は、音楽の提示有のグループでは音楽を聴く前、提示無のグループでは音楽の解説を受ける前の因子得点で、矢印の先の四角がそれぞれ音楽を聴き、場面との関連性の解説を受けた後、また音楽やその関連性の解説だけを受けた後の得点である。したがって、矢印が音楽の影響を示すことになる。有意であった明暗因子のt検定の結果を併せて図中に示す。

表1 因子分析結果

印象表現語	第一因子	第二因子	第三因子
	明暗	美的	状況
明るい	0.9	0.242	0.076
陽気な	0.877	0.179	0.003
軽い	0.861	0.182	-0.077
楽観的な	0.841	0.283	0.016
社交的な	0.816	0.226	0.089
暖かい	0.724	0.316	0.238
真面目な	-0.708	-0.015	0.085
楽しい	0.613	0.212	0.144
積極的な	0.531	0.267	0.361
美しい	0.072	0.86	0.374
きれい	0.099	0.838	0.352
澄んだ	0.256	0.705	0.317
上品な	0.263	0.687	0.266
良い	0.417	0.59	0.413
優しい	0.508	0.576	0.27
なめらか	0.136	0.569	0.277
好きな	0.17	0.327	0.145
歯切れ	0.111	0.139	0.127
面白い	0.369	0.421	0.694
印象深い	-0.225	0.272	0.587
臨場感	-0.006	0.16	0.55
迫力	-0.019	0.205	0.517

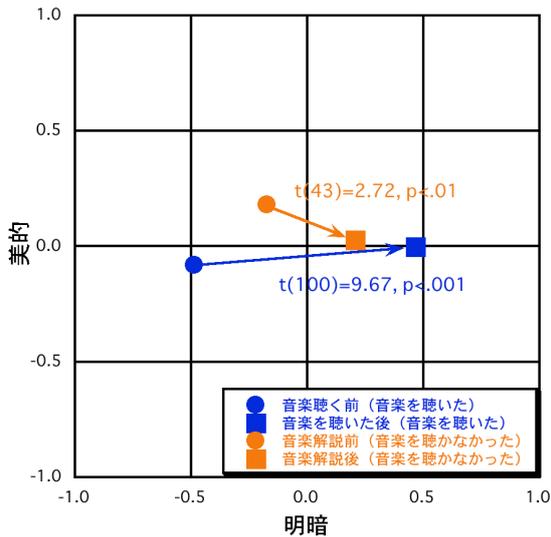


図2 音楽を聴いた場合と聴かなかった場合の明暗因子と美的因子

図2より、音楽を聴いたグループでの明暗因子の変化は約2倍大きいことが分かる。また、その変化はいずれの場合も有意であった。音楽を聴くことで、明暗因子に含まれる明るいや陽気といった印象の変化をより大きくすることができることが分かった。

図3には本校とW高校での違いを示す。いずれも音楽を提示している。図中の記号は図2と同様である。また、本校で美的因子得点が平均以上と以下で分けて得点を算出した結果も併せて示す。さらに音楽だけの印象の得点も参考のために示してある。

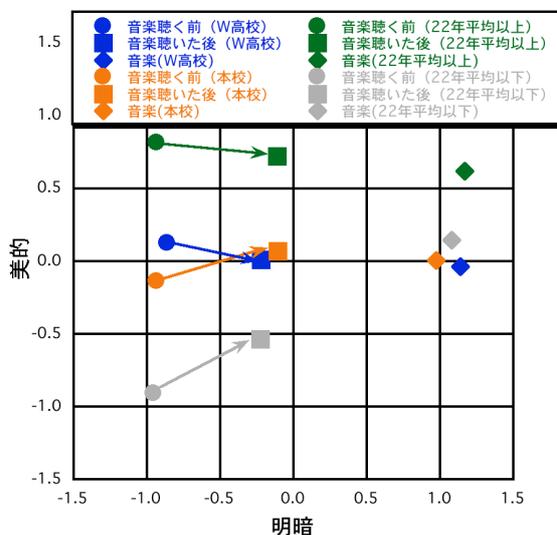


図3 W高校と本校の明暗因子と美的因子

W高校も明暗因子では本校と同じように有意で大きな変化を示しているが、美的因子において変化の増減で差があるように見える。しかし、W高校の美的因子の変化は有意でないことに加え、本校において美的因子に高い得点を示したグループでも得点が減少することを考慮すると、同様の変化を示していると判断できる。

(2) まとめ

文学作品の解説を行うとき、作品に関する音楽を聴かせることで印象の変化を大きくできることが分かった。また、環境が異なっても同じような影響を及ぼすことが分かった。国語教育に音楽鑑賞を取り入れることで、小説世界への理解を深めることができ、創造的な鑑賞力の育成につながることを期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計3件)

- ① 竹下哲義、奥田浩司、国語教育に音楽鑑賞を取り入れる試みとその教育的効果、全国高専教育フォーラム、2011年8月24日、鹿児島大学(鹿児島県)
- ② 加藤明里、奥田浩司、竹下哲義、文学において音楽が及ぼす作用に関する感性データの解析(第2報)、日本感性工学会、2011年3月3日、九州大学(福岡県)
- ③ 加藤明里、奥田浩司、竹下哲義、文学において音楽が及ぼす作用に関する感性データの解析、日本感性工学会、2010年9月13日、東京工業大学(東京都)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹下 哲義 (TAKESHITA TETSUYOSHI)
石川工業高等専門学校・電子情報工学科・教授
研究者番号：90259846

(2) 研究分担者

奥田 浩司 (OKUDA KOJI)
石川工業高等専門学校・一般教育科・教授
研究者番号：90185538